



学校だより アンケート特集号

後期の児童アンケート結果です。結果の集計とそこからわかる傾向と今後の課題について、考察してみましたのでお知らせいたします。

低学年・中学年・高学年と学年が進むにつれて各項目の割合はどう変わっていくかを調べました。



令和3年3月

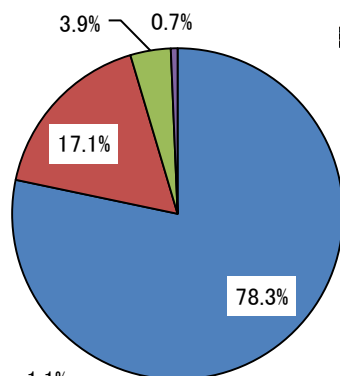
京都市立桂東小学校

校長 志村 光 司

子どもたちのアンケート結果から（１）

『学校はたのしいです。』

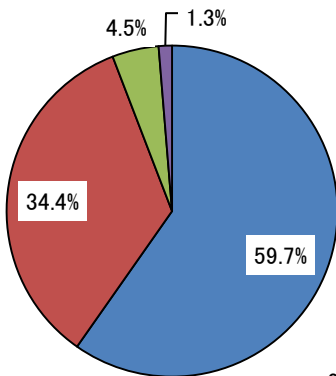
低学年



低学年

『学習はよくわかります。』

低学年

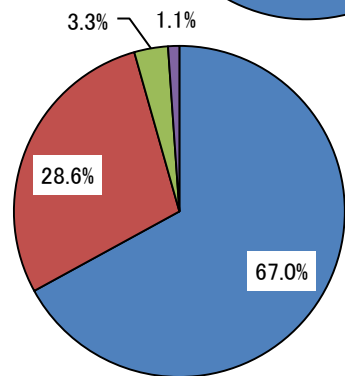
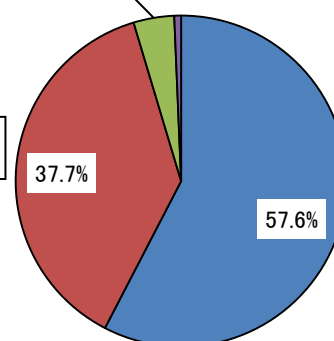


低学年

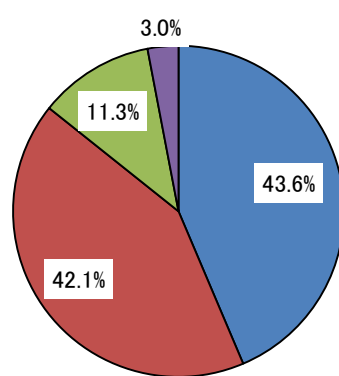
『「あいさつ・ベル着・トイレのスリッパ」がしっかりできています。』

4.0%

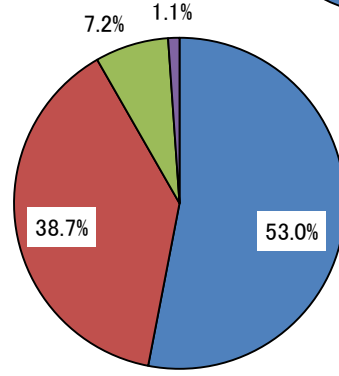
0.7%



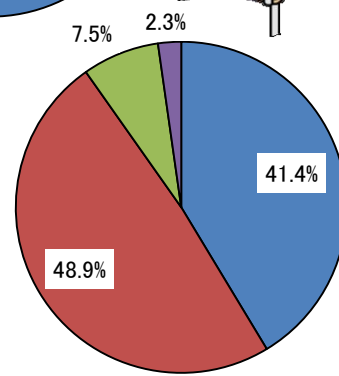
中学年



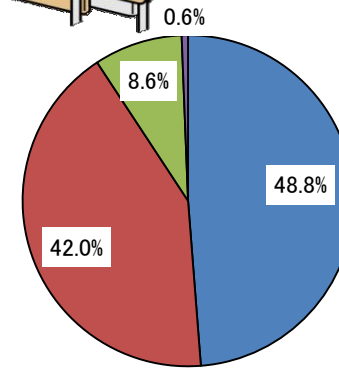
高学年



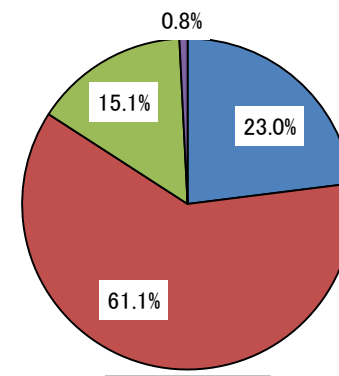
中学年



高学年



中学年



高学年

今年度の2・3学期は、新型コロナウイルス感染症により通学した回数は例年よりも少ないですが、「とても楽しい」「まあまあ楽しい」を合わせると、低学年・中学年は95%、高学年は85.7%と高い数字となっており、嬉しく思います。「楽しくない」については、低・中・高学年で0.7%～3%となっていました。

グラフを見ると子どもたちが学校内や学級に自分の居場所を作ることができていることが分かります。今後も子どもたちの様子に教職員全員で目を向け、子どもの様子を共有したり、子どもたち一人ひとりの声に耳を傾けたりして、安心して過ごせるように取り組みます。

また、様々な取組を通して充実感・成就感が感じられれば「楽しい」と感じることと思います。今後もまずは「授業が楽しい」と思えるように教材研究を重ね、分かる喜びと学ぶ楽しさが実感できる授業実践により子どもたちを育てていきます。

学習については、低学年が94.1%、中学年では91.7%、高学年では90.3%から「分かりやすい」と回答を得ました。これは「授業で子どもを育てる」という上での成果だと考えています。ただし、この結果に対して喜んでおられません。児童の感じ方と教職員の思いに違いがあります。今後もさらに授業の質を上げていく必要があります。「すべての子どもに届く授業が、すべての子どもの学力を向上させる」ことを意識しながら教材研究を行っていきます。また、家庭学習の計画を立てて自学自習の習慣化を図りたいと思います。

子どもたち全員が、授業中「全員発表する」姿を目指しています。日々の授業の中で、自分のおもしろい考えを表現する場を意図的に設定し、発表する機会を増やしていきます。そのためにも、一人ひとりが自分のおもしろい考えを発言しやすい学級づくりを行い、話す意欲を高められるようにします。

この項目には、「あいさつ」「時間を守る」「履物をそろえる」という3つの要素が入っています。低学年では95.3%、中学年では90.8%、高学年では85%が「できている」と回答しています。

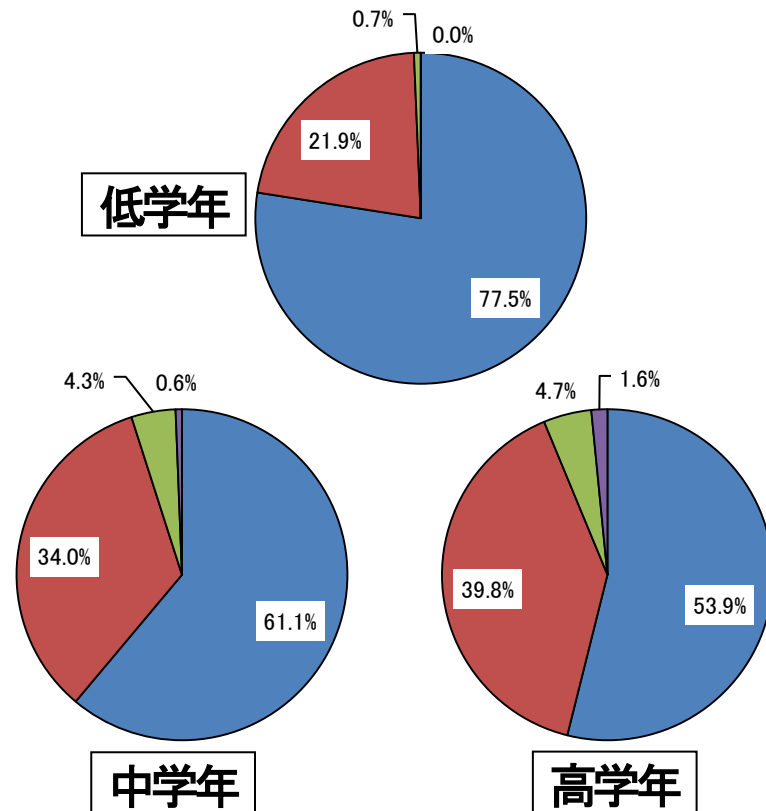
普段の子どもたちの様子を見ていると、「あいさつ」については、担任による教室での日々の指導や教職員及びPTAの方々の朝のあいさつにより、その意識は高くなってきていると思います。しかし児童自身が自信をもってできていると答えるまでには至っておりません。「自分から」という意識が持てるように、まずは大人が子どもにお手本を見せることで「あいさつができる子」に育てていきます。

また、お世話になっている地域の方には、あいさつできるようにしていきたいです。「あいさつ」においても「褒めて」「認めて」子どもたちが、あいさつしたくなるように子どもたちの良さを引き出せるように教育活動に取り組んでいきます。



子どもたちのアンケート結果から（２）

『学校のきまりや社会のルールをしっかり守っています。』

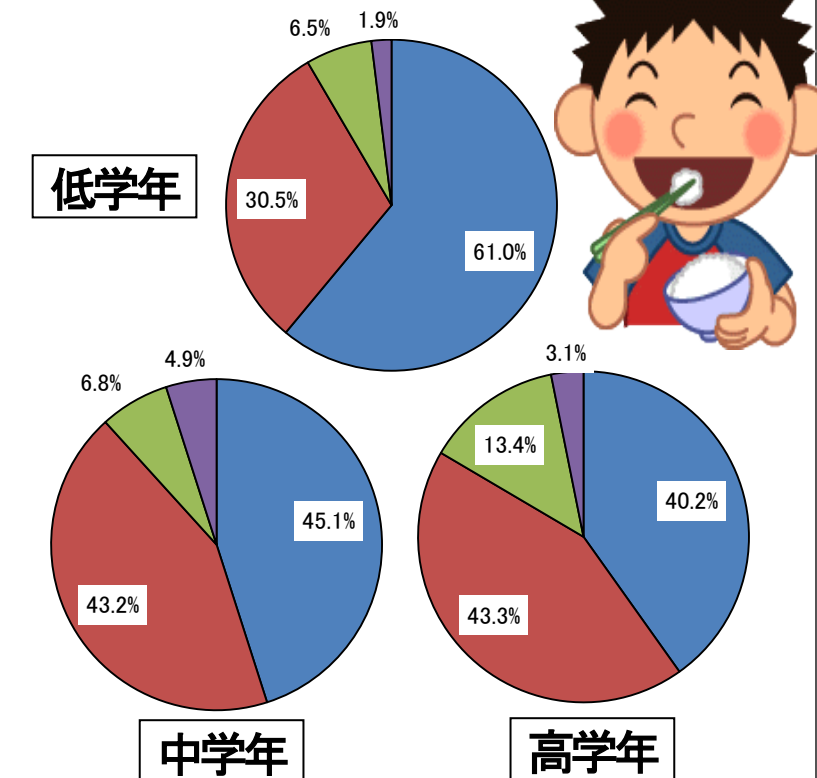


「よくできている」と「大体できている」を合わせた肯定的な回答は、低学年・中学年・高学年ともにほとんど差異はなく93～99%と高い水準でした。新しい生活様式の中、学校で友達と生活を共にしたり、勉強したりすることに喜びを見いだし、それぞれの発達段階の中で自覚を持って行動していこうという気持ちが感じられました。きまりやルールは、安心・安全に生活するために「必要なもの」と認識していると考えます。

学校では、話を聞く姿勢は課題があると思っています。今年度は、感染予防の観点から話し合い活動に配慮が必要でした。今後、全校で「聞く姿勢」を徹底したり、言語的な取組の経験をたくさん積んだりすることできまりやルールを理解し行動につながっていくよう取り組みます。

ご家庭でも子どもたちの成長段階に合わせて、規範意識につながる声かけをお願いします。学校では、今後も教職員や高学年が見本となることで、学校全体の意識を高めていきます。共に成長していきましょう。

『早寝、早起き、朝ごはんがしっかり出来ています。』に気をつけ、食事好き嫌いなく食べています。』

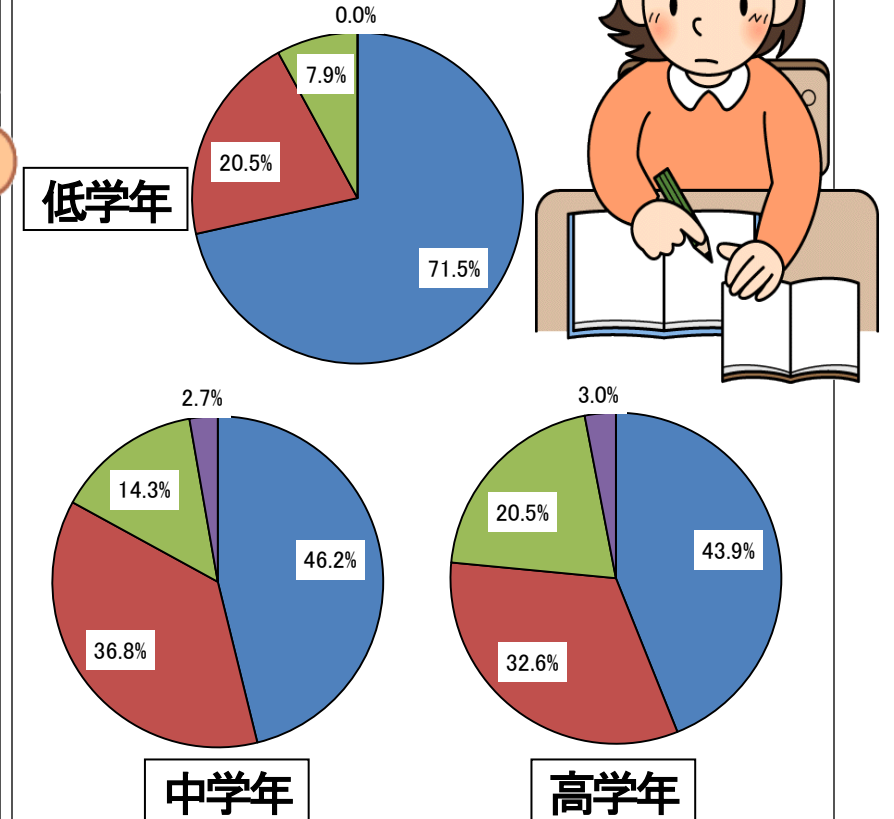


「よくできている」と「大体できている」を合わせた肯定的な回答は、低学年が91.5%、中学年が88.3%、高学年が83.5%でした。年齢が上がるにつれて減少していることが分かります。生活リズムを整えることで質の高い睡眠を得てほしいと思っています。

給食では、学校全体でほとんど残菜が残ることがありません。しかし朝食をとらずに登校してくる児童もいます。家庭科の単元の学習だけではなく、全校で食育を推進していくことで朝ごはんの大切さも指導していきます。

今後も健康についての学習を進めていきますが、ご家庭でも早寝早起きなどの基本的な生活習慣が身につくよう、引き続きお声かけをお願いします。

『自分から進んで読書に取り組んでいます。』



「よくできている」と「大体できている」を合わせた肯定的な回答は、低学年が92%、中学年が83%、高学年が76.5%でした。低学年では、肯定的な回答が高いです。

学校では、読書するだけでなく、調べ学習をする時も図書館に行き本を手にとることがあります。読書力は、読解力の基盤となる力です。しかし読書は良いことだと分かっていても「本をたくさん読みましょう・・・。」と言うだけでまだまだ終わっている時があります。授業中に大いに辞書や図鑑を活用して調べ学習をしたり、学級で本をたくさん借りてきたりして、いろんなジャンルの本にすぐ出会える環境を意図的に用意していきたいと思っています。また、調べ学習の時間を十分に確保することでじっくりと本と親しむことができるようにしていきます。

まだまだ読書に関しては、課題を感じています。来年度も読書活動の環境を整えることで、楽しみながら読書する子が増えるように努めていきます。